



01 地域の取り組み

『こらんしょ会』、『いっぷくの会』、『宮東町内会』では、“地域の居場所”づくりの活動に取り組んでいます。それぞれの地区における取り組みを紹介します。

『いっぷくの会』は平成29年8月に活動を開始。佐藤勢津子さん、佐久間弘子さん、菊地軽子さん、小島よねさん、佐久間喜子さんの5人が協力スタッフとして運営しています。会の主な活動はお茶会。スタッフ

「ちまき作ったのはじめて!」「もって食べてもいい?」
 6月17日、塚野目集会所で開かれた『いっぷくの会』。この日は、地区の子どもたちも集まり、旧暦の端午の節句にちなんで「ちまき(笹巻)」づくりに挑戦。地区のみなさんに作り方を教えてもらいながら、慣れない手つきで笹の葉を巻く子どもたちの表情は真剣。出来上がった「ちまき」にきな粉をたっぷりつけてぱくり。「はじめて食べたけどおいしい!」と、顔をほころばせる子どもたち。その笑顔につられるように、様子を見守っていた地区のみなさんにも笑顔が広がりました。

「今日は楽しかったこと〜。ごちそうさまない」
 「また、来月ない。次は“さなぶり”やっからこらんしょよ」

「農作業の合間や散歩の途中に気軽に一服して欲しい」。そんな思いを込めて名付けられた『いっぷくの会』。午後から始まる間もなく女性の参加者が目立ちますが、午後3時過ぎになると農作業をしていた男性のみなさんが「一服しにきたぞい」と顔を出します。「遅かったね。来るの待ってたよ」、「暑いから水分取ってね」。そんなやりとりからは、家族のような「絆」がうかがえます。「外ですれ違っても会釈する程度だった人が、今では姿を見かけると『今度はいつだっけ?』って話かけてくれます。それが一番うれしかったことかな」。スタッフのみなさんは笑顔で活動を振り返ります。



こらんしょ会

源宗山地区

開催日時 月2回(第2、第3土曜日)
 午前10時から午前11時30分
 開催場所 源宗山集会所
 参加費 1回の参加につき200円

会の始まりと終わりに「年をとるってどんなこと」を参加者全員で歌います

「みんなでおくとおいしいね」、「カレーライスなんてしばらくぶりに食べたこと〜」。
 6月9日、源宗山集会所で開かれた『こらんしょ会』。高橋とし子さんが腕をふるった特製のカレーライスを囲みながら、参加者は会話を弾ませます。ご飯は「天のつぶ」を使ってふっくらと炊き上げ、カレーは肉の代わりにツナ缶を使用。「高齢者の方でも食べやすいように」。そんな優しさが込められたカレーライスは大好評で、あっという間に「売り切れ」しました。

「源宗山は高齢者の一人暮らし世帯が多いよね」、「みんなが気軽に集まれる場所があれば」。そんな思いを抱いていた高橋さんと鍛治内悦子さんは、同地区の民生児童委員の齋藤洋子さんにお茶会の開催を相談。町内会長の協力もあり、平成26年4月に『こらんしょ会』を始めました。「誰でも気軽に顔を出し

寄合い処 いっぷく

塚野目地区

開催日時 月1回(第3日曜日)
 午後1時から午後4時
 開催場所 塚野目集会所
 参加費 無料 ※活動内容により会費徴収

▼協力スタッフのみなさん



▲「わずかな時間でも、気軽に立ち寄って顔を出して欲しい」という思いから、晴れた日には外にもテーブルを並べてみなさんを迎えます

▶地区のみなさんに作り方を教えてもらいながら、「ちまき」づくりに励む子どもたち。小さきまが「ちまき」が出来上がりました



「1人暮らしだと、カレーライスを食べる機会ってほとんどないんです。だから今日は“みんなでカレーライスを食べよう”って」

「みんなが集まって顔を合わせることで、自分では気付かない体調のわずかな変化に気付くことができます。最近では、いつも来る方が顔を見せずに心配している」と、他の参加者が「〇〇さん、今日はお出かけするっていつてたよ」って教えてくれることもあるんです。誰かがきちんと把握している、常に誰かと繋がっているというところは良いことじゃないかな」。4年間にわたる活動の確かな「実り」に、高橋さんと齋藤さんは頬を緩ませます。



参加者のみなさんも楽しみにしてくれているので、私たちもやりがいを感じます。好評により、6月からは食事会と茶話会の月2回開催することになりました。今後も、無理のない形で続けていきたいと思っています。

参加者に大好評だったカレーライス▶

